

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3149号 2016.7.28 発行

障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です 障害者団体がメッセージ
 東京新聞 2016年7月27日

知的障害のある当事者と家族らでつくる「全国手をつなぐ育成会連合会」が、相模原市の障害者施設で発生した刺殺事件を受けて、会のホームページで声明文と障害者に向けたメッセージを公表した。

障害者に向けたメッセージでは「障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です。障害があるからといって誰かに傷つけられたりすることは、あってはなりません。もし誰かが『障害者はいなくなればいい』なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。ですから、安心して、堂々と生きてください」と呼び掛けている。

声明文は、事件について「抵抗できない知的障害のある人を狙った計画的かつ凶悪残忍な犯行で、到底許すことはできない」と強く非難している。その上で、「今回の事件を機に、障害のある人一人ひとりの命の重さに思いを馳（は）せてほしい。お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会づくりに向けて共に歩むようお願いします」と訴えた。

障害のあるみなさんへ

(メッセージ全文)

7月26日に、神奈川県にある「津久井やまゆり園」という施設で、障害のある人たち19人が殺される事件が起きました。
 容疑者として逮捕されたのは、施設で働いていた男性でした。
 亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族にはお悔やみ申し上げます。
 また、けがをされた方々が一日でも早く回復されることを願っています。
 容疑者は、自分で助けを呼べない人たちが次々におそい、傷つけ、命をつばいました。
 とても残酷で、決して許せません。
 亡くなった人たちのことを思うと、とても悲しく、悔しい思いです。
 容疑者は「障害者はいなくなればいい」と話していたそうです。
 みなさんの中には、そのことで不安に感じる人もたくさんいると思います。
 そんなときは、身近な人に不安な気持ちを話しましょう。
 みなさんの家族や友達、仕事の仲間や施設の支援者は、きっと話を聞いてくれます。
 そして、いつもと同じように毎日を過ごしましょう。
 不安だからといって、生活のしかたを変える必要はありません。
 障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です。
 障害があるからといって誰かに傷つけられたりすることは、あってはなりません。
 もし誰かが「障害者はいなくなればいい」なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。
 ですから、安心して、堂々と生きてください。
 平成28年7月27日
 全国手をつなぐ育成会連合会
 会長 久保厚子

<相模原殺傷>強い憤り…障害者団体が声明 毎日新聞 2016年7月27日

相模原市の障害者施設殺傷事件を受けて、障害者や家族でつくる団体が相次いで声明を発表した。

知的障害者やその家族でつくる「全国手をつなぐ育成会連合会」は26日夜、ホームページで「職員体制の薄い時間帯を突き、抵抗できない知的障害のある人を狙った計画的かつ凶悪残忍な犯行であり、到底許すことはできない」と強い憤りを表明した。その上で「障害のある人一人ひとりの命の重さに思いをはせてほしい」と訴えた。

また、NPO法人「DPI（障害者インターナショナル）日本会議」も27日に声明を出した。植松聖容疑者が「障害者なんていなくなればいい」などと供述していると報じら

れている点に触れ、「事実だとすると、障害者を『あってはならない存在』とする優生思想に基づく行為に他ならない」と非難。「事件にひるむことなく、障害者の生命と尊厳が守られ、さまざまな権利が行使できるように、活動をよりいっそう強める決意だ」としている。
【飯山太郎】

相模原殺傷 「安心して…」 障害者向けメッセージ 毎日新聞 2016年7月27日

19人が死亡した相模原市の知的障害者施設での殺傷事件を受けて、知的障害者と保護者らでつくる「全国手をつなぐ育成会連合会」は27日、事件で不安を感じている障害者に向けてのメッセージをホームページに出した。久保厚子会長名で「私たち家族は全力でみなさんを守る。安心して、堂々と生きてください」と呼びかけている。

事務局には、事件への憤りや悲しみを訴える電話が各地から寄せられているといい、不安が広がらないよう、メッセージを発信した。各都道府県にある育成会にもメールで送り、会員への周知を依頼したという。

同連合会は前身団体が1952年に設立された。障害者の権利保障や家族の支援に取り組み、全国に約20万人の会員がいる。【大沢瑞季】

知的障害者団体が出した緊急声明 全文 NHK ニュース 2016年7月27日

相模原市の障害者施設に刃物を持った男が侵入して、入所者などが刺されて死亡した事件を受けて、知的障害のある人と家族で作る「全国手をつなぐ育成会連合会」はインターネットのホームページに緊急声明を出したほか、27日に障害のある人に向けて、ふりがな付きの声明も掲載しました。声明の全文です。

平成28年7月26日未明、障害者支援施設「神奈川県立津久井やまゆり園」（相模原市緑区、指定管理者・社会福祉法人かながわ共同会）において、施設入所支援を利用する知的障害のある方々が襲われ、19人が命を奪われ、20人が負傷するという未曾有の事件が発生しました。被害に遭われ亡くなられた方々に、衷心よりご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にはお悔やみ申し上げます。また、怪我をされ治療に当たられている方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

抵抗できない障害のある人に次々と襲いかかり死傷させる残忍な行為に私たちは驚愕し、被害にあわれた方々やそのご家族の無念を思い、悲しみと悔しさにただただ心を震わせるばかりです。職員体制の薄い時間帯を突き、抵抗できない知的障害のある人を狙った計画的かつ凶悪残忍な犯行であり、到底許すことはできません。

事件は、当会会員・関係者のみならず、多くの障害のある方やご家族、福祉関係者を不安に陥れ、深く大きな傷を負わせました。このような事件が二度と起きないように、事件の背景を徹底的に究明することが必要です。今後、事件対応に関わる皆様には、まずは被害者及び被害者の遺族・家族、同施設に入所されている方々のケアを十分に行ってくださいようお願いいたします。

その上で、事件の背景・原因・内容を徹底して調査し、早期に対応することと中長期に対応することを分けて迅速に行い、深く議論をして今後の教訓にしてください。加えて、本事件を風化させないように今後の対応や議論の経過を情報として開示してください。また、事件で傷ついた被害者やご遺族が少しでも穏やかに過ごせるよう、特に報道関係機関には特段の配慮をお願いします。

事件の容疑者は、障害のある人の命や尊厳を否定するような供述をしていると伝えられています。しかし、私たちの子どもは、どのような障害があっても一人ひとりの命を大切に、懸命に生きています。そして私たち家族は、その一つひとつの歩みを支え、見守っています。事件で無残にも奪われた一つひとつの命は、そうしたかけがえない存在でした。犯行に及んだ者は、自らの行為に正面から向きあい、犯した罪の重大さを認識しなければ

なりません。

また、国民の皆様には、今回の事件を機に、障害のある人一人ひとりの命の重さに思いを馳せてほしいのです。そして、障害の有る無しで特別視されることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会づくりに向けて共に歩んでいただきますよう心よりお願い申し上げます。

障害のある人たちへの声明文

7月26日に、神奈川県にある「津久井やまゆり園」という施設で、障害のある人たち19人が殺される事件が起きました。容疑者として逮捕されたのは、施設で働いていた男性でした。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族にはお悔やみ申し上げます。また、けがをされた方々が一日でも早く回復されることを願っています。

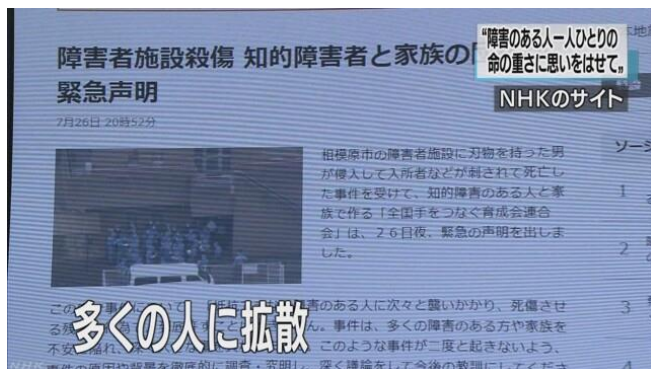
容疑者は、自分で助けを呼べない人たちを次々におそい、傷つけ、命をうばいました。とても残酷で、決して許せません。亡くなった人たちのことを思うと、とても悲しく、悔しい思いです。

容疑者は「障害者はいなくなればいい」と話していたそうです。みなさんの中には、そのことで不安を感じる人もたくさんいると思います。そんなときは、身近な人に不安な気持ちを話しましょう。みなさんの家族や友達、仕事の仲間、支援者は、きっと話を聞いてくれます。そして、いつもと同じように毎日を過ごしましょう。不安だからといって、生活のしかたを変える必要はありません。

障害のある人もない人も、私たちは一人ひとりが大切な存在です。障害があるからといって誰かに傷つけられたりすることは、あってはなりません。もし誰かが「障害者はいなくなればいい」なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。ですから、安心して、堂々と生きてください。

(原文にはふりがなが付いています)

障害者団体の声明 ネットで賛同の声広がる



NHK ニュース 2016年7月27日

相模原市の障害者施設に刃物を持った男が侵入して入所者などが刺されて死亡した事件を受けて、知的障害のある人と家族で作る団体は「どのような障害があっても懸命に生きています」などとする緊急の声明を出しましたが、この声明は多くの人にネット上で拡散するなど賛同の声が広がっています。

知的障害のある人と家族で作る「全国手をつなぐ育成会連合会」は

26日夜、緊急の声明を出し、事件を徹底的に調査・究明し、再発防止を徹底するよう求めています。

そのうえで「容疑者は、障害のある人の命や尊厳を否定するような供述をしていると伝えられていますが、どのような障害があっても一人一人は命を大切に、懸命に生きています。事件で無残にも奪われた一つ一つの命は、かけがえのない存在でした。お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会に向けて共に歩んでいただきますよう心よりお願い申し上げます」と訴えています。

NHKのニュースサイトでは、この声明を伝えたニュースがインターネットでの拡散状況を示す「ソーシャルランキング」で一時トップとなり、リツイート件数がおよそ400件に上りました。

中には「犯罪者の理屈をいいと思ってしまった人、それがいいの」などとする書き込み

も寄せられました。

ネットでは、ほかにも抵抗できない障害者を狙ったという容疑者の供述に対し、強く反論する書き込みが相次いでいて、今回の声明には賛同の声が広がっています。

一人ひとりの命の重さに思いをはせてほしい 障害者団体が緊急声明

中日新聞 2016年7月26日

障害者施設殺傷事件を受けて、障害者の権利擁護などに取り組む「全国手をつなぐ育成会連合会」（大津市）は二十六日夜、「職員体制の薄い時間帯を突き、抵抗できない知的障害のある人を狙った計画的かつ凶悪残忍な犯行であり、到底許すことはできません」などとする緊急の声明を発表した。

障害者の存在を否定する植松聖容疑者の供述が報道されていることに触れ「私たちの子どもは、どのような障害があっても一人ひとりの命を大切に、懸命に生きています」「家族は、その一つひとつの歩みを支え、見守っています。事件で無残にも奪われた一つひとつの命は、そうしたかけがえのない存在でした」と指摘。「事件を機に、障害のある人一人ひとりの命の重さに思いをはせてほしい」「障害の有る無しで特別視されることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会づくりに向けて共に歩んでいただきますよう」などと訴えている。

連合会統括の田中正博さん（55）は「惨状を受け止めきれず、深く傷ついた会員らの力になりたかった」と説明。ショックを受けている、知的障害のある会員らを励ますため、会長ら五人が書き上げた。

連合会は一九五二（昭和二十七年）、知的障害児を持つ三人の母親が教育、福祉、就労などの施策の充実を求めて「精神薄弱児育成会（手をつなぐ親の会）」として発足。二〇一四年六月に現在の名前で再構成された。全国五十五団体の会員二十万人が活動をしている。

植松容疑者「遺族に心から謝罪したい」

TBS系（JNN） 2016年7月27日

神奈川県相模原市の障害者施設で入居者19人が死亡した事件で、逮捕された元職員の男が取り調べに対し「遺族の方には心から謝罪したい」と供述していることが新たにわかりました。

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」の元職員・植松聖容疑者は、26日未明、施設に押し入り、入所者の19歳の女性を殺害した疑いなどで、27日朝、身柄を横浜地検に送られました。車の中では、笑みを浮かべたような表情で報道陣を見回す様子が見られました。

神奈川県警によりますと、植松容疑者は取り調べに対し、「今回の事件に関しては、突然のお別れをさせるようになってしまって、遺族の方には心から謝罪したいと思います」と供述しているということです。

また、犯行当時、正門とは別の東側の門から施設の敷地内に侵入したと供述していることや、施設内にいた職員の両手を結束バンドで縛り、それを廊下の手すりに結びつけていたことも新たにわかりました。さらに、植松容疑者が出頭時に所持していた3本の刃物に加えて、26日、現場から血の付いた包丁2本が押収されたことも明らかになりました。

警察は正午前から植松容疑者の自宅を家宅捜索し、犯行に至った経緯などを詳しく調べています。

事件の施設、重度の障害者を介助 「民間で対応難しい」 朝日新聞 2016年7月27日

相模原市の障害者施設で26日起きた殺傷事件。津久井やまゆり園の役割について、神奈川県は指定管理者の募集要項にこう記した。

「重度・重複障害等、民間施設では対応が難しい知的障害者を積極的に受け入れる」

障害者総合支援法に基づき、重度の障害がある人の入浴や排泄（はいせつ）、食事の介助を行う。厚生労働省によると、障害者を入居させてサービスを行う施設は今年3月時点で全国に2617施設あり、13万1565人が利用する。

ただ、こうした施設は減少傾向にある。政府が「脱施設」を掲げ、地域で支え合うよう在宅で利用できるサービスを充実させてきたためだ。93年に成立した障害者基本法で、障害者の社会参加促進が規定されたことが背景にある。

政府は13年度末から4年間で施設の入居者を4%以上減らし、施設を出て地域生活に移る人を12%以上増やすことを目指す。このため、残った施設には重度の障害者が集中しつつある。

障害者や家族から不安や憤りの声

NHK ニュース 2016年7月27日

相模原市の知的障害者施設で、入所者などが刃物で刺されて19人が死亡、26人が重軽傷を負った事件を受けて、障害のある人や家族からは不安や憤りの声が上がっています。

知的障害のある人と家族で作る「全国手をつなぐ育成会連合会」の田中正博統括は27日、NHKのインタビューに応じ、今回の事件について、「障害を理由に狙われてしまったのは本当に残念です。一人の容疑者の勝手な思い込みが暴走した結果、テロに近い大量殺人が起きてほしくない場所で起きてしまった非常に悲しい事件だと感じています」と心境を話しました。

また、事件の影響について、「自分の周りで同じような事件が起きるのではないかと不安を感じた家族から、電話がずいぶんかかっています。障害のある人や家族の間で『障害者はいらない』『排除し、力で淘汰（とうた）していく』という容疑者のことばに動揺が広がっています」と話しました。

そのうえで、「それぞれの個性をどう生かしていくかが、多様な社会を生み出すことにつながります。『障害者はマイナスな存在だ』とか、『障害そのものが悪い』と考えるのではなく、みんなで生きていく気持ちが大事だというプラスの思考を持って、一人一人の暮らしぶりに着目しながら、個々の存在を大事にする社会にしていだけたらと思います」と訴えました。

さらに、今回の事件で犠牲になった人たちの実名が公表されなかったことについて、「実名を発表する人もされない人もいるというのが、いちばん望ましいのではないかと思います。被害者たちの命は、ひとまとめにしていいものではないはずだと多くの国民に知ってもらうためには、一人一人にどんな人生があったのかや、生きるべき命が断たれてしまった無念さを、みんなで共有すべきであって、すべて障害というひとくくりにして見えなくなってしまったのは残念だと思っています」と話しました。

知的障害のある人がいる職場では

東京・品川区にある知的障害のある人が働くパン屋では今回の事件について、店を利用する人たちから「事件をニュースで知り、ことばになりませんでした」という声が聞かれました。

東京・品川区にあるパン工房プチレーブでは、軽度と中度の知的障害者5人が職員の支援を受けながら働いています。このうち、7年前から働いている40歳の女性は仕事を覚えるまで時間がかかりましたが、今ではパンを焼くだけでなく接客もこなし、この店で働くことができない存在だということです。

店では27日も多くの人を訪れて、障害のある人たちが焼いたパンを購入し、早速、店の前のテーブルで食べる姿が見られました。

幼い娘を訪れた30代の女性は「今回の事件をニュースで知り、ことばになりませんでした。パンを買うことで障害のある人たちの力になりたいと思っています。障害がある人に対する偏見は決してあってはならないことです」と話していました。

店を運営する社会福祉法人品川総合福祉センターの大石信人さんは「亡くなった方たちは一人一人生きがいを持って暮らし、家族にとっても生きる糧のような存在だったと思うととても残念な事件です。障害のある人たちが生き生きと活躍する場が増えていくように、これからも取り組んでいきたい」と話していました。

今井絵理子氏、障害者は「幸せを作ることもできる」 日刊スポーツ 2016年7月27日

自民党の今井絵理子氏（32）が、相模原市の知的障害者施設で起きた殺傷事件を受け、障害を持って生まれた子どもを育てる母親としての思いをブログにつづった。

今井は27日に更新したブログで「はじめに犠牲になられた方々やご家族の皆さんへ心から哀悼の意を表します。この事件を朝早く知り、『悲しみ』と『怒り』と『なぜ』という気持ちでいっぱいでした」と、入所者19人が死亡し、26人が重軽傷を負った今回の事件について書き出した。

津久井署に出頭した元職員の植松聖容疑者（26）が、今年2月に衆院議長に宛てた手紙で「障害者は不幸を作ることしかできません」などと書いていたことに触れ、今井は『なぜ、この子は生まれてきたのだろうか？』『なぜ、我が家だけ？』『何のために、生まれてきたのだろうか？』私自身そういう風に思ってしまう時もありました。生活への不安、社会への不安、、、様々なことと向き合っていかなければいけない現実があるのです。いくら我が子が可愛くても心は疲れていくものです。そういった様々な要素が覆いかぶさった時に『死』という選択肢が浮かんでくるのです」と明かした。

「しかし、その『不安』『心配』という心の疲れを取り除ける解決の糸口があれば、少しでも変わるのではないかと思っています」と、障害者だけでなくサポートするその家族も安心して過ごすことができる環境作りが必要だと主張。「母として、自分が高齢を迎えた時、我が子に対し、心置きなく天国に旅立ちたい」との思いをつづった。

そして最後に「障がいを持っていても不幸ではありません。幸せを作ることだってできます。なぜなら、私は息子に出会えたことが何よりも幸せだからです。息子が私に幸せを作ってくれたから」とつづってブログを結んだ。

職場で虐待を受けた障害者 昨年度は970人に NHKニュース 2016年7月27日

仕事をしている障害者で、違法な低賃金で働かされたり、職場で差別的に扱われたりして虐待を受けた人は、昨年度970人に上ったことが厚生労働省の調査で分かりました。

この調査は、4年前に施行された障害者虐待防止法に基づき、厚生労働省が虐待の情報が寄せられた事業所を対象に毎年行っています。

昨年度は1325の事業所を調査し、このうち507の事業所で、前の年度より487人多い合わせて970人への虐待が確認されたということです。

このうち、最低賃金より安い賃金で働かされたり、賃金が支払われなかったりする「経済的虐待」を受けていた人が855人と最も多く、次いで暴言や差別的な扱いを受ける「心理的虐待」が75人、暴行されたり、体を拘束されたりする「身体的虐待」が73人でした。

厚生労働省は「製造業や医療、福祉業を中心に30人未満の小規模な事業所で最低賃金を守らないなどの虐待が目立っている。障害者の雇用が増えているなか法律を周知徹底し、事業所への指導を強化していく」としています。

社説：相模原殺傷事件 犯行は残忍で言葉失う 京都新聞 2016年7月27日

相模原市の障害者施設に男が侵入し、入所者数十人が次々に刺された。19人が死亡し、26人が重軽傷を負った。男は施設の元職員とみられ、「ナイフで刺したことは間違いない」

と話している。

19人もの犠牲者を出した殺人事件は戦後、前例がない。動機や背後関係の解明を待ちたい。

事件があったのは26日午前2時45分ごろで、相模原市緑区の「津久井やまゆり園」から「施設内に刃物を持った男が侵入してきた」と神奈川県警に110番通報があった。午前3時すぎに、「私がやりました」と警察署に26歳の元職員が出頭したという。

警察は男を殺人未遂などの疑いで逮捕し、詳しい経過や犯行動機を調べている。これまでの捜査では、男は約4年前から施設に勤務し、今年2月に退職している。

容疑者とみられる男が、この頃に衆院議長公邸に障害者殺害を予告する手紙を持参していたことも分かった。政府関係者によると、予告は手書きで書かれ、施設名を挙げたうえで「職員の少ない夜勤に決行する」「見守り職員は結束バンドで身動き、外部との連絡を取れなくします」と実際の犯行通りに具体的に記していた。

警察当局によると、「他害の恐れがある」として、精神保健福祉法に基づき、3月まで措置入院させたという。こうした経緯がありながら、今回の容疑者の犯行をなぜ事前に防げなかったのが捜査の重大なポイントとなる。

多くの障害者が首を狙われており、就寝中に無抵抗だったと思われる入所者を狙う犯行は残忍で、卑劣きわまりない。男が「障害者なんていなくなってしまう」という趣旨の発言をしたことには言葉を失ってしまう。

容疑者は乗用車で乗り付けており、刃物やナイフ計3本を持っていた。刃物の入手経路を調べ、計画性の有無も判断する。夜間は職員8人が宿直勤務しており、他に警備員1人も施設にいた。

施設は神奈川県が建設し、県内の社会福祉法人が指定管理者として運営し、サービスを担当していた。

事件当時は19～75歳の149人が八つの寮に分かれて滞在していたという。

現場は神奈川県内の最北部にある。JR中央線の相模湖駅から東へ約2キロ、近くに小学校があり、山あいの住宅地の一角にある。

男は居住棟の入り口ドアをハンマーで破って侵入したという。施設の警備体制が十分だったかも検証が必要だろう。

社説：【障害者殺傷事件】なぜ凶行を防げなかった 高知新聞 2016年7月27日

神奈川県相模原市にある知的障害者施設「津久井やまゆり園」に26日未明、近くに住む元職員の男が侵入し、入所者を次々と襲った。

26日夜の時点で19人が死亡し、26人が重軽傷を負う未曾有の惨劇となった。殺人事件では戦後最悪の被害とみられる。

出頭後に逮捕された容疑者は「障害者なんていなくなってしまう」との趣旨を供述しているという。何の罪もない人々を犠牲にした残忍さ、動機の醜悪さに驚きを隠せない。

なぜ、一方的で過激な思考に伴う凶行を防げなかったのか。真相解明を急がなければならない。

現場は地域の障害者福祉の拠点施設で、常時介助が必要な149人が入所していた。容疑者は複数の刃物と縛り上げるための結束バンドを持ち込み、犯行に及んだ。夜間で職員の数少なく、入所者が寝ている状況を狙ったとみられる。

計画性が疑われよう。容疑者は職員として2012年12月からことし2月まで勤めていた。当然、施設内部の構造や職員の配置などを熟知していたとみてよい。

厚生労働省によると、障害者の入所施設は全国で約2600カ所あるが、防犯対策の具体的規定はない。事実上、各施設に委ねており、現場の施設は夜間、門だけでなく建物ごとに施錠していたという。

改めて防犯の在り方を各施設が見直す必要はあるにせよ、内情に通じた元職員の犯行と

なれば、一般的に施設側の対応も難しいと言わざるを得まい。

ただし、容疑者が事前に、犯行に及ぶ意思をあらわにしていた場合はどうだろう。

警視庁によると容疑者は2月、衆院議長の公邸に持参した手紙で、障害者が「安楽死できる世界」を主張し、現場の施設などを「標的」として殺害を予告していた。

さらに施設関係者に「障害者を殺す」と発言し、地元警察の事情聴取でも「いつでも大量殺人する」と話していた。このため、市は精神保健福祉法に基づく措置入院を決め、容疑者は施設を退職した。

容疑者が、差別的思考によって障害者を一方的に排除する意思をいわば「公言」していたにもかかわらず、重大な犯罪を未然に防ぐことができなかった。

医療を含めた行政のほか、神奈川県警、警視庁と多くの機関が関わる中で、果たして情報や危機意識が共有されていたのか。それぞれの対応は適切だったのか。疑問を禁じ得ない。

14年には川崎市の介護付き有料老人ホームで、3人もの高齢者が相次いで転落死し、しばらくしてから職員が殺人の疑いで逮捕される事件もあった。

いずれも特異な事件には違いないが、弱者を守るべき福祉施設の職員が入所者を襲う事件が続けば、不安が拡大しかねない。関係機関が緊張感を持って検証を尽くし、再発防止の具体策を探る必要がある。

障害者施設殺傷 何が凶行に走らせたのか

西日本新聞 2016年07月27日

前例のない衝撃的な出来事である。これほど多くの社会的弱者を標的にした残忍な殺傷事件が起きるとは一体誰が想像しただろう。

相模原市の知的障害者施設を施設元職員の男が襲った。容疑者の人物像が断片的に浮かび上がる一方、「なぜ」「どうして」という疑問は尽きない。再発防止を図るためにも、徹底的な捜査で事件の全容解明を急ぎたい。

施設を設置した神奈川県によると、殺人未遂などの容疑で逮捕された男は2012年12月から施設に勤務し、今年2月に退職した。

施設では10～70代の知的障害者の男女約150人が暮らしていた。日常の介護を必要とし、平均の入所年数は18年だった。

「障害者なんていなくなっしまえ」。同県警によると、男はそんな趣旨の供述をしているという。驚くほかない。

包丁とナイフの計3本を準備し、入所者が寝静まる未明の時間帯を選んだ。施設内では職員を縛った上で障害者を襲った。その多くは首を刺されていたという。

周到な計画性と強い殺意が浮かび上がる。なぜ、残虐な行動に至ったのか。まずは動機の解明が重要なポイントだろう。

男は2月、施設関係者に「障害者を殺す」と発言し、警察の事情聴取を受けた。その後、精神保健福祉法に基づいて強制入院させられる「措置入院」となったが、3月に退院していた。入院先での検査では、大麻の陽性反応が出ていたという。

過去に起きた無差別殺人とは違って、今回はかつて自分が介護した入所者を襲うという極めて特異な事例だ。死傷者数でも戦後最悪規模の事件である。

入所者の命をどう守ればいいのか。事件は福祉関係者のみならず、社会全体に大きな波紋を広げている。

何が容疑者を凶行に走らせたのか。警察や行政との連携は十分だったのか。措置入院を終わらせる判断は適切だったのか。事件の捜査はもとより、社会的背景も含めて総合的な検証が必要である。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

